令和6年度埼玉県
英語指導方法改善事業

研究成果発表（中間発表）



三芳町立三芳小学校
三芳中学校







三芳中学校

三芳東中学校

藤久保中学校

三芳小学校　上富小学校

唐沢小学校　竹間沢小学校

藤久保小学校





三芳町 グローバルアクション ２０２４年度



全校配置したALTとの授業づくり



英検®準会場の設置、受験料補助

町内留学ができるイングリッシュツアー









令和5年度の課題

- 中学校の言語活動の時間を増やす。
- コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確にした単元ゴールの設定をする。
- 学習者用デジタル教科書の活用や小中連携の取組をする。

研究テーマ

英語で自分の思いや考えを
主体的に表現することができる
児童生徒の育成



実現に向けての方策

① 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動（言語活動）を行う時間を毎時間設定する。

② 単元計画を作成し、毎時間の授業で必要感のある課題の提示・まとめ・振り返りを入れ、指導計画の充実を図る。

③ 単元目標に向けて学習者用デジタル教科書の有効な活用方法の研究と実践を行う。

④ 小中の円滑な接続を踏まえた指導方法の改善・充実を図る。

研修の取り組み



1 英語研究推進委員会

★月１回　開催
★参加者
　三芳小　外国語推進委員
　三芳中　英語推進委員

★活動内容
　英語指導方法改善事業に関する取組についての研究



2 小中外国語・英語部会

★夏季研修会（８月）
　授業研究会（９月）
　学習者用デジタル教科書活用研修会（１０月）

★参加者
　町内小学校　外国語主任
　　英語専科
　町内中学校　英語担当教員



3 小中相互授業参観

★年度当初
★実施校
　三芳小学校
　三芳中学校

★小中の授業参観を行うことにより、小中の円滑な接続を踏まえた指導方法についての研究



4 ALT活用研修会 テラトーク活用研修

★ALT活用研修
　月１回開催
　町内での指導方法の共有

★テラトーク活用研修
　夏季休業中に実施
　家庭学習での活用

①実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動（言語活動）を行う時間を毎時間設定する。

スモールトークの充実



スモールトークの充実

年度当初の状況

●一問一答や型を使ってのやり取りのみで、コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じた表現を考えてやり取りをする経験はなかった。

小学校

★単元ゴールと関連したテーマでスモールトークを行う。
★中間指導を行う。
★ペアを換えて、複数回行う。
★一往復のやり取りではなく、継続したやり取りを目指す。

中学校



★単元を貫き、帯活動としてスモールトークを行う。
★中間指導を行う。
★ペアを換えて、複数回行う。
★一問一答ではなく、テーマに沿って2分程度会話がつながるやり取りを目指す。
★スモールトークノートを活用し、考えをまとめたり、話した内容の振り返りを行う。

スモールトークの充実

成果と課題

◎成果

・日常的にいろいろな相手と話す機会があったことや、スモールトークに入る前にALTとのデモンストレーションや児童・生徒とのインタラクションを入れたことで、話すことへの抵抗感が少なくなり、誰とでも話せるようになった。

・使える表現やキーフレーズが増えた。

・疑問詞（5W1H）を使い、話題を広げられるようになった。

・話すこと（やりとり）における、小中連携した系統的な指導の土台が作れた。



▼課題

・他の活動の時間に影響しないよう、指導の流れややり方を工夫する。

・やり取りの表現（言語面・内容面）に関する指導の仕方を工夫する。

スモールトークの充実

次年度に向けて

・**ゴールの明確化**。小中連携の視点で、どの学年で何ができるようになれば良いか整理する。

・**小中連携の段階的な指導方法**の検討。
スモールステップでやり取りをつなげられる手立てを共有する。

・**年間計画を作成**し、スモールトークの時間を計画の中に位置付ける。
また、扱うテーマについても小中連携の視点から検討を行う。



②単元計画を作成し、毎時間の授業で必要感のある課題の提示・まとめ・振り返りを入れ、指導計画の充実を図る。

単元計画作成と振り返りの充実

単元計画作成と振り返りの充実

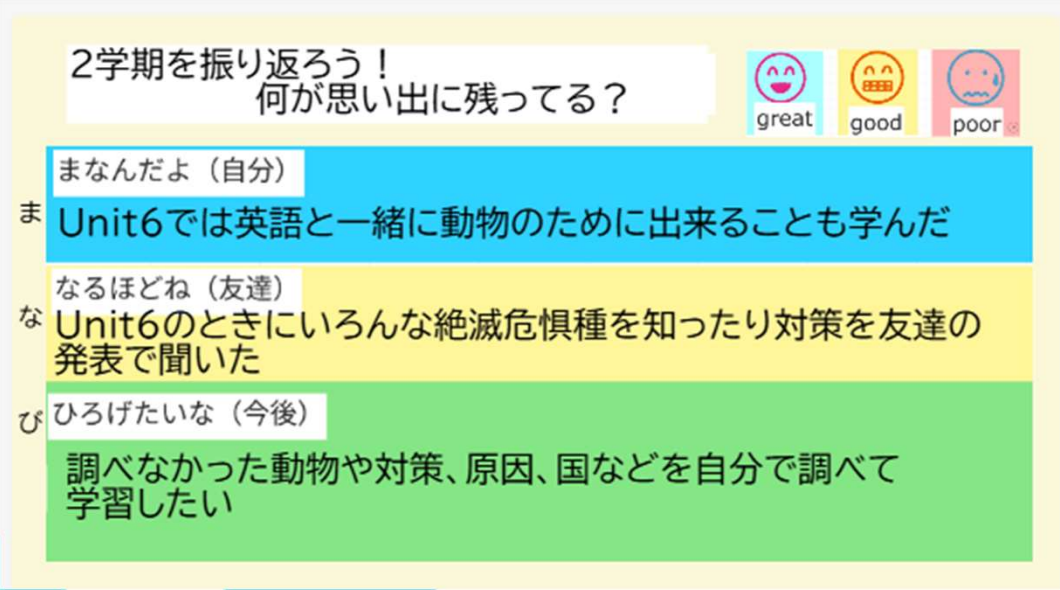
年度当初の状況	●単元を通した指導ができていなかった ●振り返りが形式的になっている

①単元目標を改善する。
　・コミュニケーションを行う目的・場面・状況を入れる。
　・４技能５領域の何で評価をするのか明確にする。
②ゴールへの見通しをもてるようにする。
③子どもが振り返りを書き貯め、ゴールに向かって自己調整ができるように振り返りのさせ方を工夫する。

振り返りの視点の共有

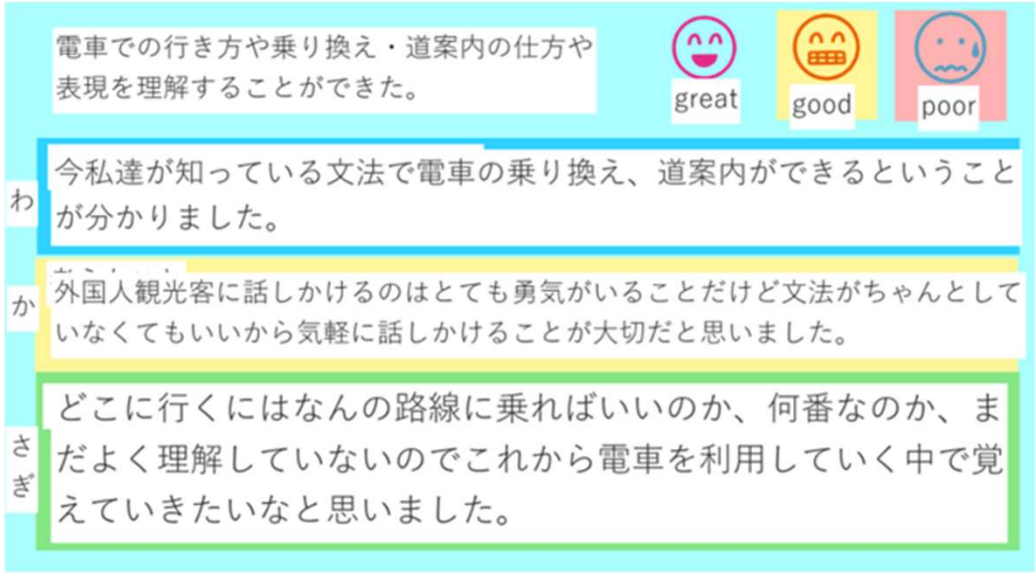
ま･な･び 小学校

まなんだよ（自分）
なるほどね（協働的な学習で気づいたこと）
ひろげたいな（今後）



わ･か･さ･ぎ 中学校

わかったこと・わからなかったこと
かんがえたこと
さらに知りたいこと
疑問に思ったこと



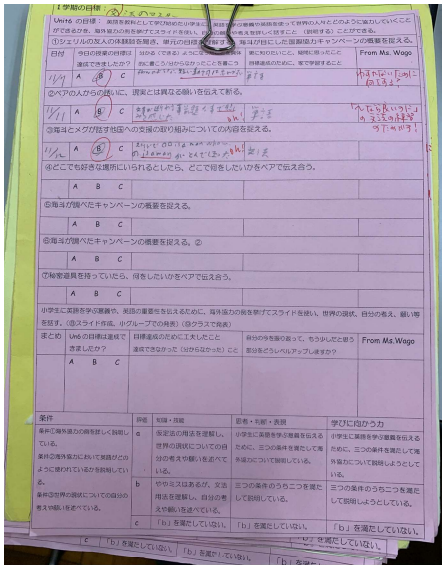
単元計画作成と振り返りの充実

成果と課題

◎成果

・振り返りカードに単元目標を明示することで、毎時間の子どもが振り返る内容に変化が見られた。
（単元ゴールに向かって自己調整する様子・子どもの変容が認識できた。）

・振り返りの視点を小中で共有し、子どもが主体的に学ぶ力を育成。



▼課題

・4技能5領域の中で、単元ゴールに偏りがある。

・子どもの自己調整力や、教師の指導改善の視点で、振り返りをより生かす方策を考える。

単元計画作成と振り返りの充実

次年度に向けて

・今年度作成した単元計画を共有
・４技能５領域のバランスの確認
　⇒年間計画の見直し

・振り返りのやり方について引き続き検討

③単元目標に向けて学習者用デジタル教科書の有効な活用方法の研究と実践を行う。

研修会を実施し、まずは学習者用デジタル教科書の意義を知る。そして学習者用デジタル教科書の機能を知ること、及び活用場面を増やすことを目指す。

研修会の流れ

【講義】学者用デジタル教科書の活用の意義の理解

＊学習者用デジタル教科書を以下「デジタル教科書」という。

時間：25分　講師：小林先生（放送大学）

■主な講義内容

① 子供たちの状況の多様さを踏まえ、子供たちが自ら学習方法を選択・決定する「学習者主体の授業」の必要性を説明。

② 「学習者主体の授業」の実現に向けて、デジタル教科書の機能や活用方法を紹介し、子供たちに学びを委ねる重要性を説明。

③ 実際の授業場面や文科省から公開されている動画を基に、「学習者主体の授業」のポイントを説明。

【ワークショップ】学者用デジタル教科書を活用した授業づくりの検討

時間：75分　進行：埼玉県西部教育事務所　三芳町教育委員会

実際にデジタル教科書のサンプル版に触れながら機能を確認し、外国語の4技能ごとに活用できそうな機能・授業場面を検討した。

■主な流れ（前半）

【個別ワーク：45分】

デジタル教科書のサンプル版に触れ、外国語の4技能を軸に、授業内で活用できそうな機能を探した。その後、4技能を念頭に置き、デジタル教科書が活用できそうな授業場面と活用方法を付箋に書き出した。

■主な流れ（後半）

【グループワーク：15分】

各自が書き出した付箋を模造紙上で4技能ごとに整理しながら、活用方法を共有・議論した。

【全体発表：15分】

グループでの検討内容を、代表者が模造紙や端末を見せながら全体に発表した。

■グループの編成方法

学校種毎に、4～5人でグループを編成。

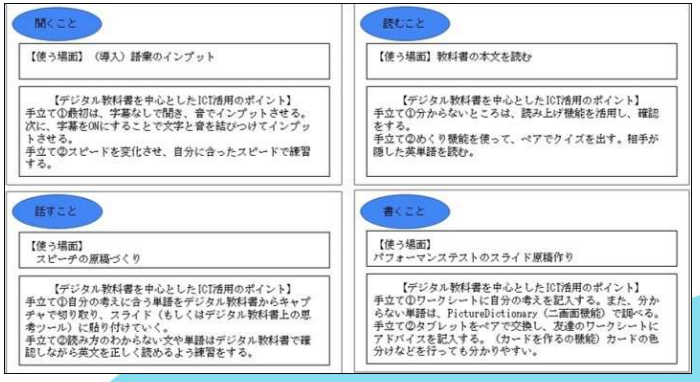
【リフレクション】学者用デジタル教科書活用プランの作成

時間：25分　進行：埼玉県西部教育事務所

【個別ワーク→グループワーク】

講義・ワークショップを振り返りながら、自身の授業における具体的なデジタル教科書活用プランをオンライン上のワークシートで作成した。こちらも外国語の4技能ごとに整理を行った。

最後に、前段のワークショップと同じグループで、各個人のデジタル教科書活用プランを発表し、意見交換を行った。



研修会の様子

全体発表



【ワークショップ】学習者用デジタル教科書を活用した授業づくりの検討





活用場面・方法についてグループで協議

研修会の様子

言語活動⇒活用方法

【リフレクション】学習者用デジタル教科書活用プランの作成



読むこと

【使う場面】音読練習

【学習者用デジタル教科書を中心としたICT活用のポイント】
①時間をとり、生徒各自で音声を確認しながら音読練習を行う
②音声や意味を確認しながら練習を行う
③読みながら日本語訳も確認し、本文の内容理解を促す
④資料の英文を読み、教科書にはない文を読むことで読んで理解する練習を行う

話すこと

【使う場面】Small Talk の復習

【学習者用デジタル教科書を中心としたICT活用のポイント】
Small Talk 動画を即興で話す練習、復習に使うことでより英語を話してみたいと思う気持ちを引き出すことができる。

書くこと

【使う場面】
Sounds and Letters / Let's Read and Write

【学習者用デジタル教科書を中心としたICT活用のポイント】
手立て①映像を見てアルファベットの書き順を必要な回数確認し、書く練習をする。
手立て②単元末の活動で使用するカードの作成（英文をタブレット上のカードに書く）・・・タッチペンが必須

学習者用デジタル教科書活用の研究と実施

成果と課題

◎成果

・講義を通し、デジタル教科書の活用の意義を理解することができた。
・デジタル教科書を実際に触れる時間が確保されていたことで、機能を十分に知ることができた。
・実際の授業と照らし合わせ、4技能ごとの活用法について考えることができた。

▼課題

・授業で学習者用デジタル教科書を使用する時間がまだ少ない現状がある。

学習者用デジタル教科書活用の研究と実施

次年度に向けて

目標を達成するための個別最適な学びを保障する手段としての活用の仕方を研究する。

④小中の円滑な接続を踏まえた指導方法の改善・充実を図る。

・授業参観
・指導方法の共有化

小中の接続を踏まえた指導方法の改善・充実について

成果と課題

◎成果

・授業参観を通して、小中の取組の様子や、児童生徒の実態を知ることができた。

・やり取り・スピーチに関する指導内容を共有することができた。

▼課題

やり取り・スピーチに関して、小中を見通した段階的・系統的な指導の確立をする。

★本日の授業について

ご清聴ありがとうございました

